

こぎん刺しの基礎知識

●こぎん刺しとは

江戸時代に津軽地方（青森県弘前市を中心とした地域）で生まれ、現代に受け継がれている刺しゅうです。当初は藍染の麻布で作られた野良着の保温と補強の為に白い木綿糸で刺したことが始まりといわれています。

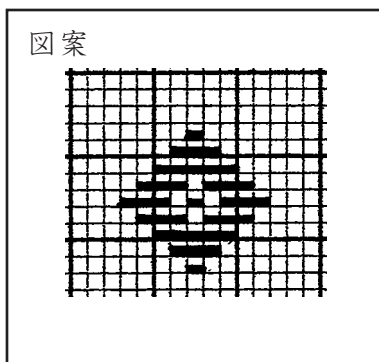
現在では様々な布と糸の組み合わせを楽しんでいますが、奇数で成り立つ模様構成は昔と変わりません。ちなみに、偶数で成り立つ模様は菱刺しといわれ南部地方（青森県八戸市を中心とした地域）で受け継がれています。

●刺す前に....

こぎんの生地（コングレス）はとてもほつれやすいのでできあがりよりやや多めに準備をします。裁断した後はほつれを少なくする為に縁かがりをするか、ボンドを縁に塗って固めます。ボンドを使う場合は、作品にひびかないように少量にして下さい。

●図案の見方

方眼の一目を横糸・縦糸一本として数えます。図案の横太線は布の表に刺し糸が渡る目数になります。

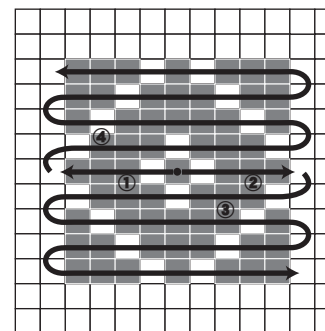


●刺し方

コングレスには縦地、横地があります。コングレスを引っ張ってみて少し伸びる方が横地です。原則として横地の方向に沿って縦糸をすくっていきます。図案上では右から左、左から右へと往復しますが実際の刺す作業としては段ごとに布の上下を持ち替え必ず右から左へ刺し進めます。（左手で針を持つ方は左と右を読み替えてください。）

刺し始めは、模様の配置を考えコングレスと模様を中心を合わせ、①のように中心から左方向に向かって刺します。中心から右側を刺すために針を付け替えて②のように右側を刺します。一段を刺し終えた時点で左側の残り糸が10cm位になるように糸を引いて調整します。次の段以降は③のようにらせん状に刺していきます。

一段ごとに糸こきをよくして、次の段へ渡る糸は裏側に2～3ミリの緩みを付けておきます。刺し始め、刺し終わりの糸は裏に渡っている刺し糸にくぐらせて糸を始末します。



●縁の始末

作品によって様々ですが、コースターなどの場合は、できあがりの少し内側にミシンを掛けて、コングレスの縁をほどいてフリンジにしたり、バイアスで包んだりしましょう。

有限会社しまや

〒036-8035 青森県弘前市百石町13

TEL 0172-32-6046 FAX 0172-32-6135